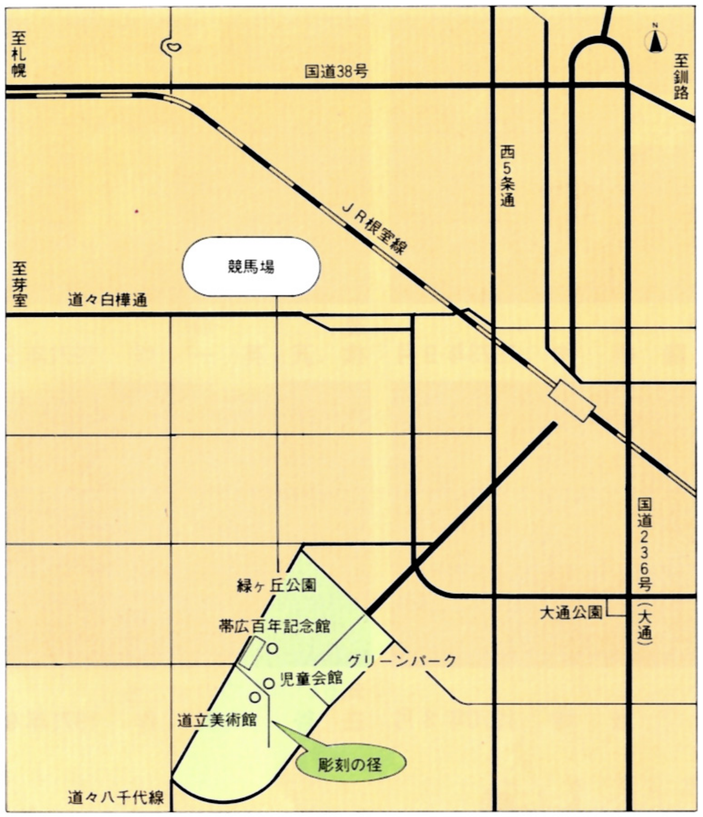


交通機関

ＪＲバス：帯広駅 ←10分 190円→ 児童会館前

ミニ情報

帯広百年記念館

開館時間：９時00分～22時00分
常設展示：９時30分～16時30分
休 館 日：月曜日、国民の祝日の翌日、年末年始
電話番号：0155(24)5352

帯広児童会館

開館時間：９時30分～16時30分
休 館 日：月曜日、国民の祝日、年末年始
電話番号：0155(24)2434

帯広市野草園

開館時間：９時00分～16時00分
開設期間：４月29日～10月31日
問合せ先：児童会館に連絡して下さい。

北海道立帯広美術館

開館時間：10時～17時（展示室への入場は16時30分まで）
休 館 日：月曜日、国民の祝日（夏期を中心に年８日開館）、年末年始、展示替期間
電話番号：0155(22)6963・FAX0155(22)4233

帯広市緑化環境部みどりと花の課

住　　所：帯広市西５条南７丁目１番地
電話番号：0155(24)4111・FAX0155(23)0158

彫刻の径

『彫刻の径』

緑ヶ丘公園は、大正時代から親しまれて来た帯広市で最も古い公園です。面積は42.5*ha*、隣接するグリーンパーク（８*ha*）と合わせると50*ha*を超える総合公園です。博物館（帯広百年記念館）、児童会館、道立美術館などの施設とともに、御影石の彫刻が配置されています。これが『彫刻の径（みち）』です。

彫刻の径は、昭和45年（1970年）本郷新氏との話し合いの中から具体化されました。その時の本郷氏の制作趣旨は次のようなものでした。

～十勝御影石による現代彫刻シンポジュウム～

十勝山系より産出される御影石（花崗岩）による彫刻作品数十点を帯広市緑ヶ丘公園内の処々に配置し、十勝の自然と造形の新しい調和を求め、清新にして芸術的環境を創造する。

尚、シンポジュウム形式をとることにより、十勝（御影）石を彫刻素材とする空間造形の可能性の追求、並びに青年彫家相互の交流による立体造形の高揚を期待する。

制作課程は一般市民に公開される。

本郷氏の紹介により、急速に準備が進められ、御影石が取り寄せられ、彫刻家が集められました。集まった彫刻家は、若手の新進作家であった中井廷也氏を中心として、多摩美術大学に縁の細井巌氏、酒井信次氏、児嶋基弘氏の４名です。北国の空の下で、御影石を直接、現場で、彫刻するという全国的にも珍しいシンポジュウムは、このようにして始められました。

それから４年、18名の作家により21体の彫刻が公園内に設置されました。当初は、５年間の予定でしたが、中井延也氏の健康上の理由から、1973年までの４年間でシンポジュウムは終わりました。しかし、設置された彫刻は風雪に耐え、時間に磨かれて素晴らしい芸術空間となって、『彫刻の径』を形作っています。

春は萌える木の芽の中で、夏は生い茂る樹林の中で、秋は舞い散る木の葉の中で、そして冬は凍てつく北の大気の中で、彫刻たちは息づき続けます。

望　郷
中井延也　作　1970年8月

なかなか孵化しない私の卵
児島基弘　作　1970年8月

栄光の受賞作品
八木ヨシオ　作　1973年9月

そ　と　へ
酒井信次　作　1970年8月

白　の　海
渡辺隆根　作　1973年9月

連　帯
横沢英一　作　1971年9月

氷原の詩
小室吏　作　1973年9月

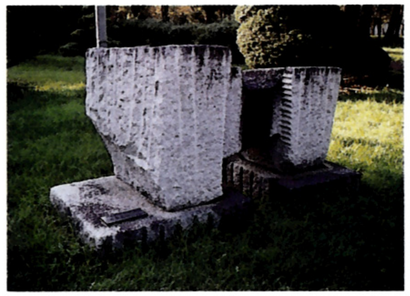
弓　人
石川浩　作　1972年8月

白とグリーン
瀧徹　作　1972年8月

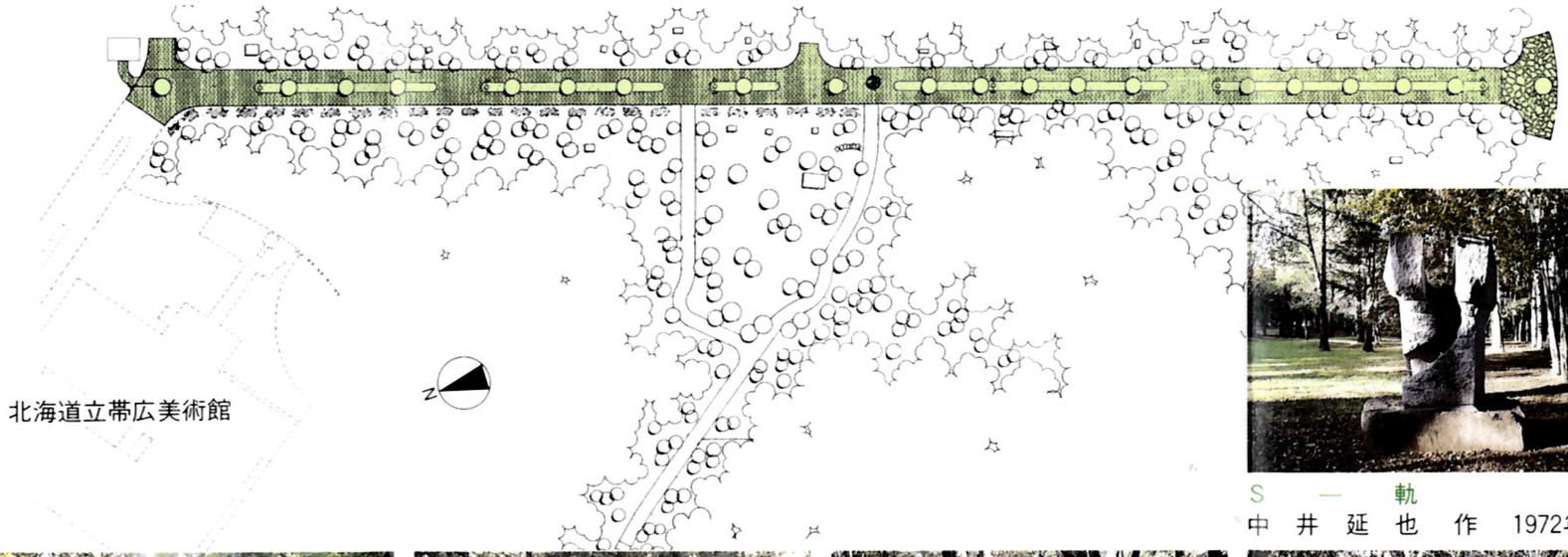
閉じ込められた魂Ⅲ-2
高嶋文彦　作　1973年9月

モ　ナ　ミ
細井厳　作　1970年8月

まるいふたつのかたち
三谷勲　作　1971年9月



アンタロマップ
中井延也　作　1971年9月



S　―　軌
中井延也　作　1972年8月

ふんばっているしもばしら
大木達美　作　1973年9月

夏の波
西山三郎　作　1972年8月

ム　の　器
田畑進　作　1972年8月

石の精
中井延也　作　1973年9月

北の導べ
中村俊昭　作　1973年9月

ウイミン
丸山映　作　1972年8月

風　門
大成浩　作　1972年8月